

報道関係者各位

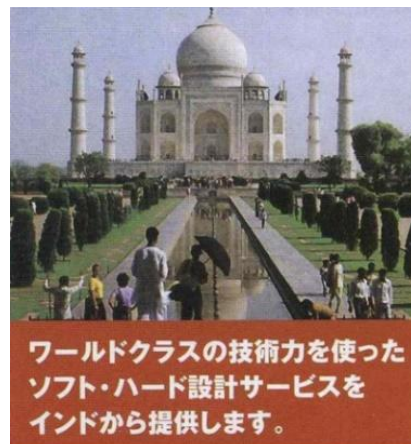
2020/04/20

ジェネシス株式会社

『高度 IT 人材不足への対処に向けて・・・』

『印度でのオフショア開発で GAF A 並の人材活用が可能に』

～オフショア開発センター設立支援の提案～



国内の高度 IT 人材不足に対処するため、ジェネシス株式会社（横浜市中区・代表取締役 西山征夫）（以下ジェネシス）は、印度にオフショア開発(*1)センターを設立する企業向けに開設支援サービスを 5 月より提供します。ジェネシスは、これまで 30 年に渡って、印度を駆使したソフトウェア・ハードウェア分野のオフショア開発サービスを提供しています。本開設支援サービスは、ジェネシスのオフショア開発提携先を印度側のパートナーとして提供するものです。

ジェネシスは 2020 年 5 月から、企業向けに印度におけるオフショア開発センター開設に関わる支援サービスの提供を始めます。

国内の高度 IT 人材は 2025 年に約 43 万人不足すると予測されています。(*2)

国内の高度 IT 人材不足と印度高度 IT 人材の豊富さ夫々の状況を考慮すると印度オフショア開発は人材の直接採用に比べて、以下の図に示すように費用対効果が優れていると言えます。

高度IT人材不足への対処策

採用による高度人材確保
(人材紹介システム等)

利点:

- > 人材の直接管理が可能。
- マイナス点:
 - > 膨大な人材選定作業量。
 - > 採用人材への満足度。
(十人採用で数名)
 - > 採用人材の退職。
 - > 高額な人材紹介料。
(十人採用で数千円)
 - > 割安給与による人材獲得難。
(中国他より低い給与水準)

オフショア開発（開発先は印度）

利点

- > 開発終了・停止が容易。
- > 退職への危惧が無い。
- > 採用人材の解雇問題が無い。
- > 欧米技術者と遜色無い技術力。
- > 費用対効果。
- > 世界展開に向けた経験の蓄積。
- マイナス点
 - > 標準作業言語が英語。

(オプション)

- 1 オフショア開発センターの譲渡
(受託側→委託側)
- 2 譲渡されたオフショア開発センターの運営支援
- 3 フリッジエンジニアの提供
- 4 分野はAI, Block Chain, FPGA等

印度から全世界へのソフトサービスの輸出額は 1991 年度の 160 億円から 2018 年度には 15 兆円になりました。2018 年度の米国への輸出額 9 兆円、これに対して、日本へは米国の 1%以下の 7 百億円強です。

GAF A、IBM、アクセンチュア、シスコ、マイクロソフト等の欧米 IT 企業は印度にオフショア開発センターを設立しています。日本企業も、印度にオフショア開発センターを設立して印度人材を活用することで、IT 人材不足への対処だけでなく GAF A 等と同レベルの人材活用の成果が期待されます。

(*1) オフショア開発： 情報技術 (IT) 開発の一部業務を海外の子会社や他の関連海外サプライヤーなどを通じて行われる委託開発の一種である。(Wikipedia)

(*2) 参照資料： 経済産業省 DXレポート ～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～ デジタルトランスフォーメーションに向けた研究会 2019/09/07

【会社概要】

社名 ジェネシス株式会社
ホームページ www.genesys.gr.jp
代表者 西山 征夫 (にしやま ゆきお)
所在地 〒231-0023 横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター9 階
電話 045-650-3341 ファックス 045-650-3291
設立・資本金 1991 年 3 月・4000 万円
取引銀行 東京三菱 UFJ 銀行横浜支店 横浜銀行県庁支店

【問合せ先】

ジェネシス株式会社
担当者： 西山
電子メール comm@genesys.gr.jp 電話 045-650-3341 ファックス 045-650-3291